

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572306215		
法人名	有限会社ヘルスケア悠愛		
事業所名	グループホームゆうあい		
所在地	秋田県男鹿市払戸字渡部114-3		
自己評価作成日	平成23年1月6日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは静かな住宅地にあり、創業者が自らの福祉理念を地域に還元することを目的として開設された。「だれでも、いつでも、気軽に、みんなと共に、助けあい、心豊かに、安心して生活できる」ホームを目指して。職員が皆努力している。地域住民との交流の取り組みとして、週一回のカラオケ大会の開催や、地域への行事・祭典の参加などを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/kaigo/ApplicationServlet?ACTIONTYPE=ViewDetailAction&amp;JIGYOCODE=0572306215&amp;SERVICFCODE=96">http://www.wam.go.jp/kaigo/ApplicationServlet?ACTIONTYPE=ViewDetailAction&amp;JIGYOCODE=0572306215&amp;SERVICFCODE=96</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年1月12日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家を改修しての事業所であり、ごく一般家庭と同様、違和感なく、生活に溶け込みやすい雰囲気を感じさせます。また、地域との繋がりも大きく、毎週行われるカラオケ大会や事務所での地域行事の会合、地域消防団との協力体制、郵便局、商店、保育所、お寺等との馴染みの関係作りによる協力体制等、地域に根差した事業所でもあります。運営者は、利用者の生活を第一に考え、ポリシーを持って接しておられ、職員にも浸透しております。「出来ることは進んでやり、出来ないことは助け合い、楽しく、元気に」過ごせるようにと利用者・職員と共の考えた標語を毎日唱和し、実践されている事業所です。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲げられているが、個々の職員への浸透が十分ではない。	企業理念の中に地域密着型サービスとしての理念を盛り込み、さらに事業所の標語としてできることは進んでいき、出来ないことは助け合い、楽しく元気に暮らすことを掲げ、毎朝利用者と共に唱和されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を招いて、およそ週一回のカラオケ大会を開催している。祭典やナマハゲ等の地域の行事に参加している。	第3土曜日を除く毎週土曜日に中学校区の広範囲の地域の方を招いてのカラオケ大会の実施や地域行事への参加、行事開催に当たっての事務所の開放、散歩時の地域の方々との会話等々、地域の一員としての交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献としては、十分ではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情により、運営推進会議は行われていない。今後速やかに開催する。	会議開催に至っておらず、市からも開催を促されている現状です。	会議開催に向け工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内のグループホームと合同で市担当者と懇談している(年1回程度)。今後は運営推進会議に招いて、市担当者との関係を築きたい。	介護保険等の手続き等の相談で、連携をとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、身体拘束は行わない。全職員に周知されている。	利用者の状況によって都度、拘束に対する考え方を伝え、しないように話合っています。また、見守りを強化する等の対応が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている。高齢者虐待防止関連法についての学習の機会には十分ではない。		

グループホーム ゆうあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と、それを補佐する者は、制度の理解と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と納得については十分になされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の意見の反映は、日々の業務の中で、受けとめて反映しているが、定型的な外部者へ表せる機会の設置は十分ではない。	利用者からは日常の会話の中で、家族等からは面会時や電話での状況説明時に意見や要望の聞き出しを行い、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見の反映は、日々の業務の中で、受けとめて反映しているが、定型的な機会の設置は十分ではない。	日常業務の中で、改善点を見つけ、いつでも言い出しやすい雰囲気のもとで、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と会社の人事担当者が、会社の経営状況・規模の範囲内で、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事担当者が、職員のシフト、人員基準への対応において可能な範囲内で、研修を受ける機会等を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内と周辺市町村エリアのグループホーム連絡会に入会しており、合同の交流会や勉強会に参加している。		

グループホーム ゆうあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応は、主にケアマネージャーが中心になって、ご本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応は、主にケアマネージャーが中心になって、ご家族との信頼関係を確保するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分に留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	十分に留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅一時帰宅への送迎、付き添い、ご本人の希望される商店での買い物、希望される医療機関への通院等を支援して、十分に留意している。	これまで通い慣れた病院受診や百貨店での買い物、理美容院、自宅訪問等、馴染みの関係が継続できるように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	十分に留意している。閉ざされた個室でなく開放的な個室で、孤立を防いでいる。		

グループホーム ゆうあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去には、終末期での退所がほとんどであり、利用終了後の関係の維持については、あまり必要ではなかったため、取組んでいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分に留意している。	センター方式でアセスメントが行われ、その後、日常的な声を拾い出し、アセスメントノートに記載しております。困難な場合は、行動や表情、仕草等で利用者本位に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分に留意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分に留意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	十分に留意している。	介護支援専門員が家族等からの意見や要望を聞き、職員からは聞き取りや課題等を用紙に記載していただき、利用者本位の介護計画が作成されています。	計画書立案日、計画内容の整合性、また継続性のある介護計画を立案され、利用者・家族等からの同意日の記入漏れへの配慮等に工夫されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分に留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム ゆうあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分に留意している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族が希望される場合、かかりつけ医、かかりつけ薬局の利用を支援している。	希望のかかりつけ医、薬局等が継続して利用できるように受診介助の支援も行われています。受診後は、通院介助報告書を用いて家族等に説明をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護職等と、適切に協働をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分に留意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分に留意している。	医療行為が生じた場合を除き、家族・主治医等と都度、十分な話し合いのもと、終末期ケアに取り組まれています。職員も方針を共有されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の新人職員には十分ではない。早急に訓練を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一部の新人職員には十分ではない。早急に訓練を行う。また、地域の消防団と交流している。	日中・夜間想定避難訓練が消防署員立ち会いのもと実施されています。また、地域の消防団に避難経路の確認をしていただき、協力体制が取られています。職員も話し合いを持たれ意識付けをされています。	避難訓練の実施記録やマニュアル等の整備を期待します。

グループホーム ゆうあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分に留意している。	一人ひとりの人格を尊重され、誇りやプライバシーを損ねないよう十分に配慮した言葉かけが行われています。	個人情報の取り扱いについて、方針を定められ、同意を得る等の工夫を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分に留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分に留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	十分に留意している。外出が困難なご利用者には、センスの良い理容師を紹介して、訪問にて整髪などをされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	十分に留意している。	畑での収穫を楽しまれ、下ごしらえや下膳等、出来ることを一緒に楽しんで行っており、食事中も食材や献立についての話題で楽しんで召し上がっておられました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、十分にケアをしている。また、かかりつけ歯科医の指導を受けている。		

グループホーム ゆうあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	十分に留意している。	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを知り、声掛けや誘導、おむつ交換等が行われています。また、歩行状態によって夜間はポータブルトイレを使用されている方もおられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームが小規模であり、職員数により、利用者主体の希望のタイミングで入浴を提供することが困難な状況である。現在は曜日を決めて週2回の入浴である。	利用者からの要望もあり、曜日を決めての入浴となっておりますが、希望によってはいつでも入浴は可能です。入りたがらない方には、声掛けの方法を変え入浴していただけるように配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分に留意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	十分に留意している。	散歩や畑への外出、通院の帰りの外食、買い物、道の駅へのドライブ等々、日常的な外出支援の他に普段行けない場所への支援も行われています。	



グループホーム ゆうあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	十分に留意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分に留意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家を改修したホームで、予算の都合もあり、あらゆる点で十分であるとはいえないが、施設の状況内で、常に努力している。	古民家を改修した事業所でもあり、一般家庭同様の造りとなっており、使用している家具や飾り付け等、馴染みやすく居心地の良いアットホーム的な雰囲気の共用空間づくりをされております。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	小さく狭いホームで、あらゆる点で十分であるとはいえないが、施設の状況内で、常に努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分に留意している。しかし使い慣れたものや好みのものの持ち込みに関しては、ご家族の理解を得られず新品の家具が持ち込まれることがある。	衣装ケースや小テーブル、椅子、仏壇、ラジオ、写真立て、アルバム等々が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように思い思いのスペース作りが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分に留意している。		